

La Confiance

ラ・コンフィアンス

大阪赤十字病院 患者総合支援センターだより

Confiance (コンフィアンス)とは、フランス語で「信頼、信用」を意味します。

vol.48

2025年 夏号

Topics

令和6年度 医療連携報告/
Breast Network News

診療科紹介 医療最前線 〈精神神経科〉

統合失調症の治療の現在地
～生物学的治療の進展と

早期介入の意義～



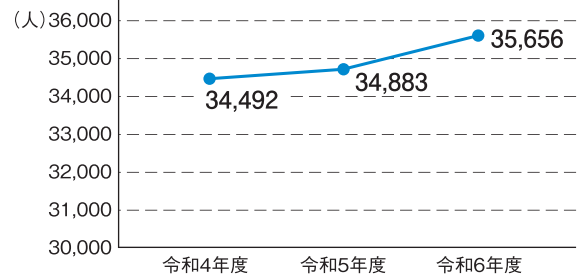
Topics 1 令和6年度 医療連携報告

令和6年度は35,656件のご紹介をいただきました。たくさんのご紹介をいただきましてありがとうございます。今年度も地域の先生方のご理解とご協力をいただきながら、よりスムーズに患者さまを受け入れられるよう積極的に取り組んでまいります。当院の地域医療連携室をぜひご活用いただきますようお願い申し上げます。

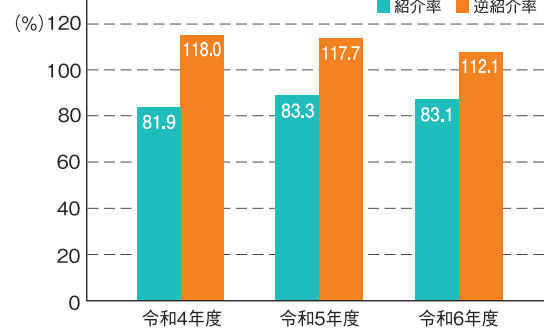
▼診療科別患者数

| 診療科 | 令和6年度 | 診療科 | 令和6年度 | |
|------------|-------|--------|--------|-------|
| リウマチ・膠原病内科 | 597 | 小児外科 | 291 | |
| 腎臓内科 | 804 | 呼吸器内科 | 2,289 | |
| 血液内科 | 828 | 呼吸器外科 | 114 | |
| 糖尿病・内分泌内科 | 794 | 精神神経科 | 314 | |
| 消化器内科 | 診察 | 3,445 | 整形外科 | 2,697 |
| | 内視鏡検査 | 358 | 形成外科 | 774 |
| | 腹部超音波 | 23 | 脳神経外科 | 481 |
| 内科 | 2 | 歯科口腔外科 | 1,432 | |
| 循環器内科 | 2,001 | 救急科 | 1,157 | |
| 脳神経内科 | 1,294 | 放射線診断科 | 診察 | 0 |
| 外科 | 743 | | CT検査 | 947 |
| 乳腺外科 | 741 | | MRI検査 | 403 |
| 心臓血管外科 | 88 | | 核医学検査 | 157 |
| 眼科 | 3,073 | | 一般撮影検査 | 0 |
| 産婦人科 | 2,001 | 骨塩定量 | 118 | |
| 皮膚科 | 1,393 | 放射線治療科 | 21 | |
| 泌尿器科 | 1,276 | 緩和ケア科 | 33 | |
| 耳鼻咽喉科 | 1,888 | 腫瘍内科 | 44 | |
| 小児科 | 3,035 | 合計 | 35,656 | |

▼紹介患者数



▼紹介率・逆紹介率



Topics 2 Breast Network News

乳腺外科主任部長 露木 茂

乳がん術後連携パスにご協力いただき誠にありがとうございます。日々の診療にお役に立てるように、定期的に乳腺疾患についての情報発信を行ってまいります。

▼当院は3つの認定施設として、乳がん診療およびHBOC診療を実践しています。

がん拠点病院として

- 乳がんの診断
- 乳がんの初期治療、再発治療

JOHBOC認定連携施設*として

- 乳がん患者および血縁者に、遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) のスクリーニング検査の推進
- 産婦人科と協力し、乳房・卵巣のリスク低減手術の実施

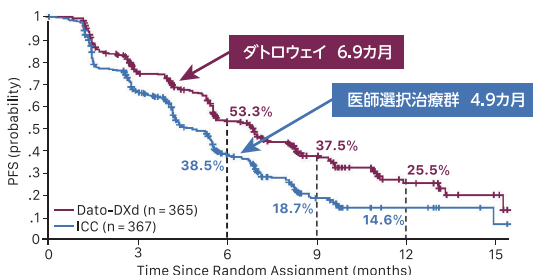
がんゲノム医療連携病院として

- 再発治療薬：トルカブ (Capivasertib) のコンパニオン診断Foundation Oneを実施
- 標準治療後のがんゲノム検査を実施

*日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療機構 (JOHBOC) の認定施設とは、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーがおり、BRCA検査陽性患者の乳房、卵巣のリスク低減手術、サーベイランスを実施できる認定施設で、大阪府には8施設しかありません。

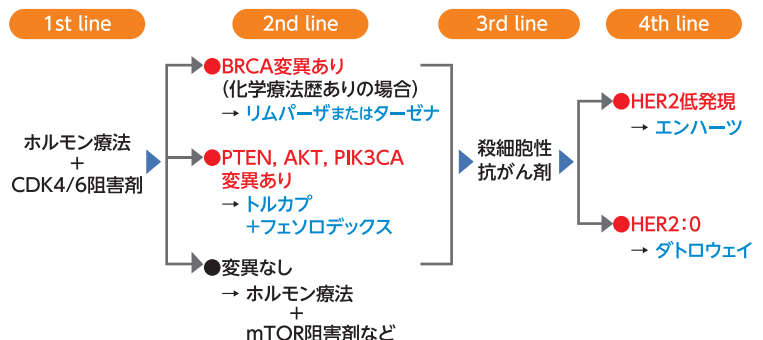
● ER陽性HER2陰性進行再発乳がんへ新薬「ダトロウェイ」が認可

datopotamab-deruxtecan (ダトロウェイ) は、ER陽性HER2陰性乳がんに適応があり、1、2レジメンの化学療法歴がある症例において、医師選択治療薬 (エリブリン、カペシタビン、ゲムシタビン、ビノレルビン) と比較して、PFSを医師選択治療群4.9カ月に対してダトロウェイ群6.9カ月と優位に延長を認めました。主な副作用には、口内炎、嘔気、角膜障害などがあります。



● ER陽性HER2陰性進行再発乳がんにおける治療方針の多様化

ダトロウェイをはじめ、ここ2、3年で多くの治療薬が承認され、ER陽性HER2陰性再発乳がんの治療戦略は、多様化しています。ガイドラインを参考に下記のように、各種コンパニオン診断を用いながら、治療方針が決定されていきます。



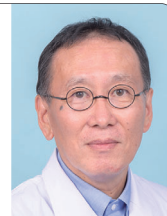
統合失調症の治療の現在地

～生物学的治療の進展と 早期介入の意義～

Profile

精神神経科
主任部長

和田 央



1990年京都大学医学部卒業。その後、大阪赤十字病院、北野病院、サントクス病院(パリ)、京都府立洛南病院を経て、2013年より現職。京都大学臨床教授を兼任。

【資格】精神保健指定医/日本精神神経学会専門医・指導医

統合失調症は、人口の約0.7～1%が罹患する精神疾患であり、陽性症状(幻覚・妄想など)、陰性症状(感情の平板化・意欲低下)、および認知機能障害を三主徴とします。発症年齢は10代後半から30歳代前半が多く、生活史の中核期にあたるため、早期の治療介入と社会的支援が予後を左右する重要因子となります。

かつては抗精神病薬の主流が第一世代薬(定型抗精神病薬)であったため、錐体外路症状(EPS)や高プロラクチン血症などの副作用が患者のQOLやアドヒアランスに大きな影響を与えていました。しかし近年、第二世代抗精神病薬(非定型抗精神病薬)の普及により副作用プロファイルが改善し、寛解・機能回復を目指した治療戦略が現実的な選択肢となってきています。

特に、2剤以上の抗精神病薬で効果が得られない治療抵抗性統合失調症に対しては、クロザピン(商品名:クロザリル)の使用が唯一エビデンスに裏付けられた選択肢となっています。日本では2022年時点で約7,000人がクロザピン治療を受けており、臨床的には約60～70%の患者において陽性症状の顕著な改善が認められています。一方で、顆粒球減少症や心筋炎のリスクから、治療には厳格な血液モニタリング体制が必須であり、導入・維持にあたっては総合病院等での多職種連携が重要です。

また、電気けいれん療法(ECT)も、急性期の重症例や緊張病、拒薬傾向を伴うケースにおいて極めて有効です。修正型ECTでは麻酔・筋弛緩薬併用により安全性が確保され、統合失調症においては70～80%の臨床的改善率が報告されています。難治例では、薬物療法とECTの併用による寛解導入が現実的な選択肢です。

このように治療選択肢が拡充されたことで、従来は難しかった社会機能の回復が、現実的な治療目標となっています。特に女性患者においては、症状が改善した後に結婚し、妊娠・出産を経験されることもめずらしくなっています。こうした事例は、30年ほど前には想像も困難でしたが、現在では十分に期待しうる経過となっています。

一方、治療による症状の完全寛解が得られない場合でも、地域移行支援、訪問看護、精神科デイケア、就労支援プログラムなどの介入により、一定の社会的機能を保ったまま地域生活を送ることは十分に可能です。

また、入院加療が必要となる場合には、精神症状の治療に加えて、身体的な有害事象への対応が極めて重要となります。代表的なものとしては次(右記)が挙げられます。

● 主な身体的な有害事象

- 誤嚥性肺炎
- 深部静脈血栓症(DVT)
- 代謝性異常(体重増加、糖代謝異常など)
- 低ナトリウム血症
- 尿閉
- 錐体外路症状(EPS)
- 転倒・骨折
- 薬剤性有害事象(ADE)

これらの身体合併症は、患者の生命予後やQOLに影響を及ぼす可能性があり、入院中に適切な内科的対応が求められる場面も少なくありません。したがって、的確な身体診療体制が整備された総合病院の精神科病棟での対応が望ましく、精神科・内科・神経内科などの複数科による連携のもとで診療を進める体制が、より安全かつ精度の高い治療を可能にします。

臨床の現場では、発症初期における精神病症状が非特異的な形で出現することが多く、抑うつ、不安、対人過敏、集中力低下、引きこもり傾向、軽度の被害感などが数週間から数カ月先行する例が少なくありません。このいわゆる前駆期症状は、うつ病や不安障害などの神経症性障害と鑑別困難なことも多く、初期診断には慎重な臨床的観察が求められます。

さらに、初発の精神病エピソードでは、統合失調症以外の身体疾患の可能性を常に念頭に置く必要があります。代表的な鑑別疾患としては、抗NMDA受容体脳炎および甲状腺機能異常(特に甲状腺機能亢進症)が挙げられます。抗NMDA受容体脳炎は若年女性に多く、幻覚・妄想・カタトニア・自律神経症状・けいれん・意識変容など多彩な症状を呈する自己免疫性脳炎です。実際、初発の統合失調症と診断された患者のうち約9.6%が後に抗NMDA受容体脳炎と判明したとの報告があり、同疾患の患者の約75%は初期に精神科で治療を受けていたとされています。また、甲状腺機能障害に伴う精神症状は、統合失調症の一部症状(幻覚・妄想・無為など)と類似する場合があるため、臨床では両者の鑑別診断が非常に重要です。

統合失調症は、いまや「慢性進行性で社会復帰が困難な病」から、「早期発見と適切な介入により、回復と社会参加が可能な病」へとその概念を変えつつあります。身体科の先生方におかれても、早期症状への感度を高めていただき、必要に応じて迅速な精神科連携をご検討いただけますと幸いです。

「第32回 大阪赤十字病院懇話会」報告



山中伸弥先生(左)
当院坂井院長(右)

2025年6月7日(土)にシェラトン都ホテルにて、ハイブリッド方式で開催いたしました。

当日は多くの医師・関係者の皆さまにご参加いただき、今後の地域医療連携体制の充実に向けて大変有意義な機会となりました。

特別講演には、京都大学iPS細胞研究所 名誉所長・教授の山中伸弥先生をお迎えし、「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」と題してご講演いただきました。再生医療をはじめとする先端医療の最新動向をわかりやすくご紹介いただき、参加者一同、大きな刺激と学びを得ました。ご多忙のなかご参加いただいた皆さまに、心より御礼申し上げます。



特別講演の様子



懇親会の様子

Information 講演会・イベントのご案内 2025年8月～10月

第57回 日赤フォーラム

- ◆ 日 時 / 9月13日(土) 15:00～
- ◆ 場 所 / 大阪赤十字病院 4階 第4会議室 ハイブリッド方式 (WEB開催との併用)
- ◆ テーマ / 未定

大阪赤十字病院 小児科 クリニカルカンファレンス

- ◆ 日 時 / 第352回 9月25日(木) } 15:00～16:30
第353回 10月23日(木) }
 - ◆ 場 所 / 大阪赤十字病院 4階 第4会議室 + WEB (Zoom)
 - ◆ 主 催 / 大阪赤十字病院 小児科 ◆ 対 象 / 医師、医療関係者 ◆ 参加費 / 無料
- ※開催方法や詳しい演題名・演者は発表月の第1週に決定しますのでお問い合わせください。

日赤オンライン医学講座

地域の先生方や一般市民の皆さま向けにオンラインでの医学講座を行っています。申込不要でお好きな時間にご視聴いただける10～20分程度のミニ講座です。

- 当院ホームページから視聴できます。
- **YouTubeによる動画配信**
※公開より1年間視聴できます。
- 月に2回、原則毎月1日・15日に新規動画を配信。
※休日の場合は翌開庁日です。

ぜひ、ご覧ください!



人事異動紹介 2025年4月2日～7月1日

新任

- 5月1日付【緩和ケア科】大棟 有紀 (非常勤嘱託医師→医長)
- 【産婦人科】田中 有紀 (医師)
- 【消化器内科】服部 友哉 (専攻医)
- 7月1日付【小児科】野田 絵理香 (専攻医)
- 【眼科】山崎 稜太 (専攻医)

退職

- 4月30日付【消化器内科】久保 智暉 (専攻医)
- 5月31日付【脳神経外科】香月 教寿 (非常勤嘱託医師)
- 【循環器内科】金沢 武哲 (医師)
- 【麻酔科・集中治療部】大嶋 圭一 (医師)
- 【救急科】木村 彰太 (専攻医)
- 6月30日付【眼科】廣井 佳野 (部長)
- 【循環器内科】相田 健次 (医師)
- 【小児科】中道 恵里那 (医師) / 中島 諒 (専攻医)

※人事異動の内容は現時点のものですが、今後変更になる可能性があります。最新情報は、下記二次元バーコードから当院ホームページをご確認いただけます。



発行

大阪赤十字病院 医療連携・入退院支援課

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30

<https://www.osaka-med.jrc.or.jp>

2025年7月発行

■医療連携・入退院支援課のご案内

受付時間 / 平日8:30～20:00、土曜8:30～13:00

休 診 日 / 日曜・祝日、12月29日～1月3日(年末年始)、5月1日(本社創立記念日)

連 絡 先 / (直通) TEL:06-6774-5127

FAX:06-6774-5126